

町政のひろば

NO.11

川西町 町政のひろば 第11号

昭和49年4月8日発行

発行者・中魚沼郡川西町〔町長・根津正三〕／編集・川西町役場企画室広報係／印刷所・川西町中央町・白南風社



昭和49年度予算 各会計の全ぼう

議会で方針を述べる根津町長

昭和四十九年度の予算は、先月十四日、九日間の審議経過を経てそれぞれ原案どおり成立しました。一般会計が九億八千七百万円、国保の事業会計はか五つの特別会計が二億八千五百一十二千円で、一般・特別会計の合計は、十二億七千二百一十二千円という大規模なものとなり、すでに四月一日から執行されています。町全体予算の前年度当初との比較

経済の転換期

まよわず 敢然と対処

町長の施政方針

は、十七・八パーセントの伸び率、注目されるところは、総合開発計画の第二次五か年計画の初年度となり、その審議結果をもうらし、計画的行財政が再度スタートしたこと、特別会計のうち、水道会計が一部企業会計として発足をみたことなどです。今回は、町長の施政方針を中心に、成立された予算の全ぼうについての特集としてみました。

経済情勢の激変は、いたずらに住民の生活不安をひきおこし、行財政運営のうえでも大きな障害となつてあらわれています。

国においては、総需要抑制を前面に打ち出し、この変動期の解決策として、一、財源の重点的、効率的な運用、二、生活安定、福祉の充実、三、弾力的、機動的運用の三つを大きな柱として予算が組まれています。

一方、県にあっては、国に歩調をそろえ、危機に対応した県民福祉の充実や、生活関連、社会資本の整備といった、いわゆる福祉立県を強調した予算とされています。

従って、町としてもそうした緊縮財源を頭におきながら、反面山間豪雪地域の後進性脱却をねらいとし、圧縮された中にも最大限効率的な予算を編成しました。総合開発計画の第一次五か年計画は四十八年度をもって終了することになりましたが、当初計画以上の成果を納めることができ、行財政の調和と高効率化という点においては、一応の基盤が完成したものと考えます。

町政の計画的な執行のために、引続いて第二次五か年計画の諮問をしますが、この予算案の各種事業は、審議会の結果に基づいて感じこんだものです。

経済の大きな転換期にあたっては、冷静に、まよわず、屈せず、英断をもって豊かな町づくりに努力しなければならぬと考えています。

均整と調和のとれた町政へ

七項目を大きな指針

一般会計は、九億八千七百万円で、前年度に比べ一億九千七百万円の増となり、伸び率は二十四・九五パーセントです。

新年度は、第二次構造改善事業費一億円を当初から見積ったため規模がふくれましたが、これを除いた場合は、約十三パーセントの伸びにとどまり、抑制予算をあらわしています。

- 一、明るい、健康と福祉の充実
- 二、教育文化の向上
- 三、産業基盤の確立と農村生活環境の整備
- 四、道路整備と豪雪対策の推進
- 五、中小企業の振興と交通安全対策
- 六、過疎対策と観光の開発
- 七、広域行政の推進と防災態勢の確立

国県の大きな施策をそしゃくしながら、きめ細かな独自の政策により、地域住民の繁栄と福祉の充実を推進したいと考えます。

均整と調和のとれた町政実現のために、次の七項目を大きな指針と

指針の要点

老人などに あたたかい手を

人づくり、町づくりのものは健康です。

幼児、乳児、老人、病弱者などは、社会の責任において守るべきであり、国や県の施策とタイアップしながら、きめ細かく見守りたいと思います。

健康管理に重点を置いて、予防検診など検診の徹底をはかるため費用を増額しました。

環境衛生は、十日町市との衛生施設組合の中で、ゴミ焼却炉の建設、ゴミ捨て場への道路整備、火葬場、し尿処理などの充実を考えたいです。

母子センターは、常に利用者が

多く喜ばしいことですが、今後は助産婦の後継者も考えなければなりません。

四月からは、老人、乳児、妊産婦の医療費が無料となり、町費において負担することになりました。

また、老人対策のひとつとして手軽な内職をあっ旋、指導するた

め、総合センターの分館（消防分遣所）を造りました。

保育関係は、七つの保育所と一つの幼稚園により、保育率五十パーセントと、県下でもトップクラスとなつています。それぞれ施設の充実を考え、幼稚園舎の建設も年次的に計画しています。

町民体育館建設は 積立金を準備

最も大きなウェイトをしめているのが、教育関係予算です。中仙田小、仙田小、赤岩小三校の統合にともなう統合後の屋体建築工事をはじめ、スクールバスの購入、白倉小の百周年記念事業、川西中のグラウンド造成などが中心となっています。

高校の分校が四月から開校されますが、当分は現在の幼稚園舎を利用し、五十一年頃には独立校と

二次構・ほ場整備 備を重点に

第二次構造改善事業の費用を当初に計上したことで、産業関係の予算は、一億七千八百四十八万六千円の多額となりました。

休耕奨励金も四十九年度からは通年施行部分と、転作分のみ支払われることになり、従って他の部分はできるだけ水田復旧が望まれます。

二次構、ほ場整備とも、要求どおりの予算付けがむずかしい面も

除雪可能路線を さらに延長

土木費は、一億三千八百七十三万二千円の規模となりました。

町道は、前年に引続き除雪可能道路を延長したいと考え、改良十路線、舗装八路線を計画しています。

現在町道の総延長は、二十四万一千九百メートルですが、新年度に計画している改良三千二百六十五メートルが完成すると、改良率は全体の十六・二パーセント、舗装は、三千七百六十五メートル計

画して、約〇・七六パーセントの舗装率となります。

県道は、町内に四本あり総延長は、四万七千八百七十七メートルとなっています。四十九年度の要望がそっくり認められた場合は、改良率が約四十六パーセント、舗装率は七十一パーセントになります。

また、国道二五二号線は、本年秋までに町内分は完通する予定であり、開通式を計画しました。

河川の関係では、沖立の本堤が完成予定であり、小根岸、木落間の本堤へのかさあげも、用地買収が済み近く着工の見込みです。

また、小海川下流については、建設省の直轄工事として実施されることになっています。

災害復旧費は、四千五百四十九万七千円ですが、大半は国庫災害復旧分であり、室島・中屋敷外十件を見込みました。

商工会への 補助金をアップ

商工会への補助金を前年より増額し、商工業の振興の一助に役立てていただくことにしました。

地方産業育成資金貸付についても、引続いて実施していますので、効果的な利用を期待しています。

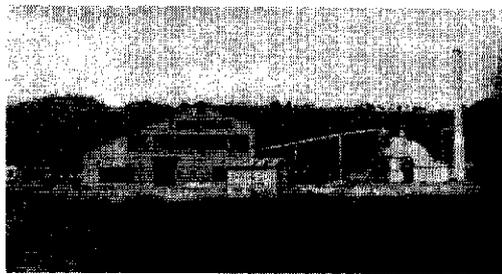
交通安全対策は、前年比八十パーセントの増額で安全指導の強化や、施設の充実などをねらいとしています。

死亡事故ゼロの日が続いていますが、六百日、七百日と記録を更新してほしいものと考えています



敬老会のひととき

活躍する ライスセンター



あるようですが、今後の政治運動により、予定通りの事業を確保したいと考えます。

新年度も、小規模土地改良費の



パワーアップの除雪態勢

住みよい町づくりを

町は、残る人たちの生活を守ることを第一としなければなりません。山紫水明なこの地を守り、住み良い環境をつくり出すならば、ユニターン現象もあらわれるものと確信しています。

高倉の保養地、松葉平も好評で

もっとも人口が多かったのは、昭和二十五年の、一万七千九百七十九人でしたが、四十五年には、一万九百七十五人で三十九パーセントの減少となっています。社会情勢の激変は、挙家離村を生み出し、過疎化現象を大きくしましたが、行政の力による過疎の完全防止は困難と考えます。

町は、残る人たちの生活を守ることを第一としなければなりません。山紫水明なこの地を守り、住み良い環境をつくり出すならば、ユニターン現象もあらわれるものと確信しています。

分遣所業務 さらに充実

四十八年度で津南町にある総合福祉センターが完成します。また十日町にあると畜場も施設が充実しました。町もそれぞれ負担していただきますのでご利用ください。

消防の関係では、新年度には本署が完成しますし、川西分遣所では、職員二名の増をはかり、救急業務などもさらに充実します。

あり、希望者も多いので、こうしたものをさらに造成したいと思えます。

工場の誘致についても、地元、工場、町が一体となって今後も検討したいことです。

観光面では、既設の園地などの整備、管理を中心に計上し、野口白倉の観光道路の白倉側千メートルの舗装工事を計画しました。



緊急に備えて...

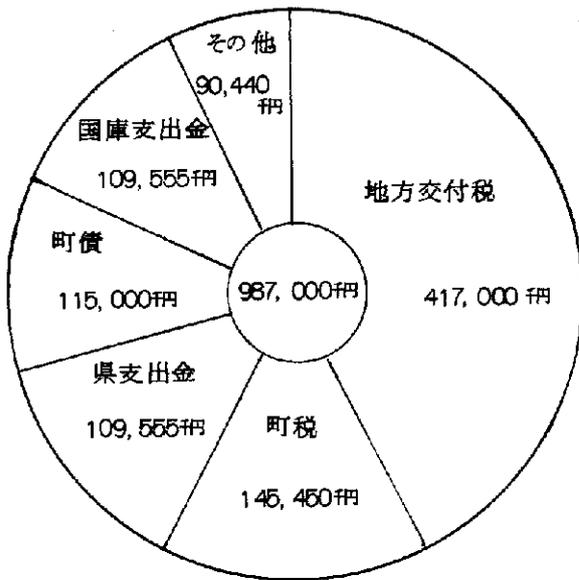
歳入 ほぼ半分を交付税に依存

歳入総額九億八千七百万円の内訳は、地方交付税が前年度より二十五・六パーセント増で四億一千七百万円、町税は、十四・七三パーセント増で一億四千五百四十五万円、これは、いずれの税も現行の税率を据置きにより算定した結果です。

国庫の支出金が、二億四千五百六十四万円、これはほとんど特定事業に付随した、ひもつきの金ということになりました。

そのほか町債が一億一千五百万円、などを中心的な財源として編成したものです。

歳入の構成



予算の

主な使いみち

〔総務費〕

- 町営住宅修繕二十万、● 仙田開発協議会補助三十万、● カブミラー購入三十三万、道路標識材料八万、街路灯設置十四万など交通対策費二百八万、● 工場誘致部落補助十萬など過疎対策費五十八万、● 総合福祉センター(津南)負担金五十一万六千など広域市町村圏事業費四百三十二万六千、● 分室取りこわし三十二万八千、● センター備品購入三百万、● 県知事選挙費百七万六千、● 参議員選挙費百六十万三千、● 町税等納期前納付奨励金二百十三万、● 納税組合事務交付金百十五万。

〔民生費〕

- 重度身障児扶養手当七万、● 重度身障者医療扶助十萬八千、● 高齢者慰問品代一万、● 老人作品展など賞品代五万、● 老人クラブ運営補助八十六万、● 敬老祝金八十六万、● 褒たきり老人見舞金三十六万など老人福祉費二千七百六十万一千。

〔衛生費〕

- へき地看護士育成二十万四千、● 予防接種六十九万、● 循環器及び結核検診四十一万四千、● へき地医薬品代二十万九千、● 子宮ガン検診十八万、● 胃ガン検診五十六万、● へき地冬季巡回診療委託五十万四千など予防費七百五十九万、● 十日町市川西町衛生施設組合負担金一千八百九十

〔農林水産業費〕

- 出稼者帰省バス助成十萬ほか農業委員会費二百二十二万七千、● 水稲共同育苗補助三十万、● たばこ耕作組合補助十五万、● 山菜加工槽補助十萬、● 大豆生産奨励金二十五万、● 優良畜畜導入補助三十万、● 畜産組合補助五万、● 養豚振興協議会補助五万など畜産費百五十八万、● 基盤整備事業補助一十萬、● 小規模土地改良事業補助三百万、● 休耕田復旧補助二十万、● 桑園改植等補助三十万、● 養蚕近代化事業補助十一万、● 二次産物生産組織育成補助(第二・三地区)十五万六千、● 近代化施設整備事業補助(鶴吉、高坪、伊友南部、下鳥生産組合、上野機械施設利用組合、千手養豚団地、上野養豚団地組合など)九千八十四万二千など構造改善事業推進費一億百十五万五千、● 林道開設工事(継続)一千二百六十万、● 鋪設組合補助十五万。

〔商工費〕

- 商工会補助百六十万、● 育成資金貸付金四百万、● 二六公園整備二百八十万、● 節黒城跡整備等百二十四万。

〔土木費〕

- 町道改良舗装工事(山手線

〔災害復旧費〕

- 農林水産施設災害復旧工事(壺島、高倉、中仙田、赤谷、岩瀬、大白倉、仁田)九百八十二万二千、● 町費小規模災害復旧工事七十万、● 公共土木災害復旧工事(藤沢)二千八百六十七万四千、● 町費小規模災害復旧工事百五十万等。

〔教育費〕

- 校舎整備改修(高校分校)六百万、● 小学校用スクールバス購入三百三十万、● 同統合学校施設整備六十万、● 白倉小百周年一十萬、● 仙田小屋体建設白倉小プール建設、仙田小グラウンド整地、上野小グラウンド整地等五千七百八十五万。

〔消防費〕

- 常設消防二千四百六十四万四千、● 消防施設八百三十万五千、● 庁舎建設六百七十三万七千、● 消防団関係一千六十一万など広域消防費四千九百七十七万。

一般会計予算款別比較

歳入

款	本年度予算額 (円)	前年度予算額 (円)	比 較 △:減(円)	構 成 比 (%)	人口1人当り (円)
1. 町 税	145,450	131,042	14,408	14.74	13,838
2. 地方譲与税	6,000	4,700	1,300	0.61	571
3. 自動車取得税交付金	8,000	5,300	2,700	0.81	761
4. 地方交付税	417,000	332,442	84,558	42.25	39,673
5. 交通安全対策特別交付金	365	200	165	0.04	35
6. 分担金及び負担金	16,375	19,850	△3,475	1.66	1,558
7. 使用料及び手数料	3,747	8,595	△4,848	0.38	356
8. 国庫支出金	109,555	109,041	514	11.10	10,423
9. 県支出金	131,009	28,658	102,351	13.27	12,464
10. 財産収入	15,166	13,987	1,179	1.54	1,443
11. 寄附金	1,000	473	527	0.10	95
12. 繰入金	2,000	2,000	0	0.20	190
13. 繰越金	8,000	8,000	0	0.81	761
14. 諸収入	8,333	8,800	△467	0.84	793
15. 町債	115,000	116,800	△1,800	11.65	10,941
歳入合計	987,000	789,888	197,112	100.00	93,902

歳出

款	本年度予算額 (円)	前年度予算額 (円)	比 較 △:減(円)	構 成 比 (%)	人口1人当り (円)
1. 議会費	20,265	15,831	4,434	2.06	1,928
2. 総務費	146,793	180,325	△33,532	14.87	13,966
3. 民生費	114,225	89,095	25,130	11.57	10,867
4. 衛生費	53,985	45,500	8,485	5.47	5,136
5. 農林水産業費	178,486	71,999	106,487	18.08	16,981
6. 商工費	14,535	10,652	3,883	1.47	1,383
7. 土木費	138,732	121,163	17,569	14.06	13,199
8. 消防費	49,052	14,338	34,714	4.97	4,667
9. 教育費	166,845	169,787	△2,942	16.91	15,873
10. 災害復旧費	45,497	16,125	29,372	4.61	4,329
11. 公債費	49,585	47,073	2,512	5.03	4,717
12. 予備費	9,000	8,000	1,000	0.91	856
歳出合計	987,000	789,888	197,112	100.00	93,902

